スライド説明会　平野遺跡第３次発掘調査

2013.6.9 （日）

所 在 地　鈴鹿市平野町字花林地内
調査目的　宅地造成工事に関わる埋蔵文化財の記録保存
調査期間　平成 24 年 11 月 21 日～平成 25 年 1 月 10 日
調査面積　200 ㎡

1　位置と環境

平野遺跡は，鈴鹿川右岸の段丘上の中ほどに位置し，旧石器・縄文時代の埋蔵文化財包蔵地として周知されている遺跡である。これまでに，2 次に亘って本調査が行われている。

隣接する富士遺跡では，弥生時代の方形周溝墓や，古代の柵列，掘立柱建物，竪穴住居等が確認されている。また，東側に位置する中尾遺跡では鎌倉時代の建物跡が確認されている。

2　調査の結果

現況から 0.2m～0.7m掘削した基盤層上面において遺構を検出した結果，竪穴住居 3 棟，溝 11 条，土坑 22 基，多数のピットを確認した。

竪穴住居(SH04)　調査区北東部で検出された。遺構の東側には薄い焼土層が堆積していたが，明確な竈の痕跡は認められなかった。一辺はおよそ 3.4mで，多数のピットや土坑が重複している。土師器，須恵器が出土した。奈良時代の遺構と考えられる。

竪穴住居(SH05)　約 3.3m四方の竪穴住居である。中央に大きな土坑が掘りこまれており，土師器が出土した。奈良時代の遺構と考えられる。

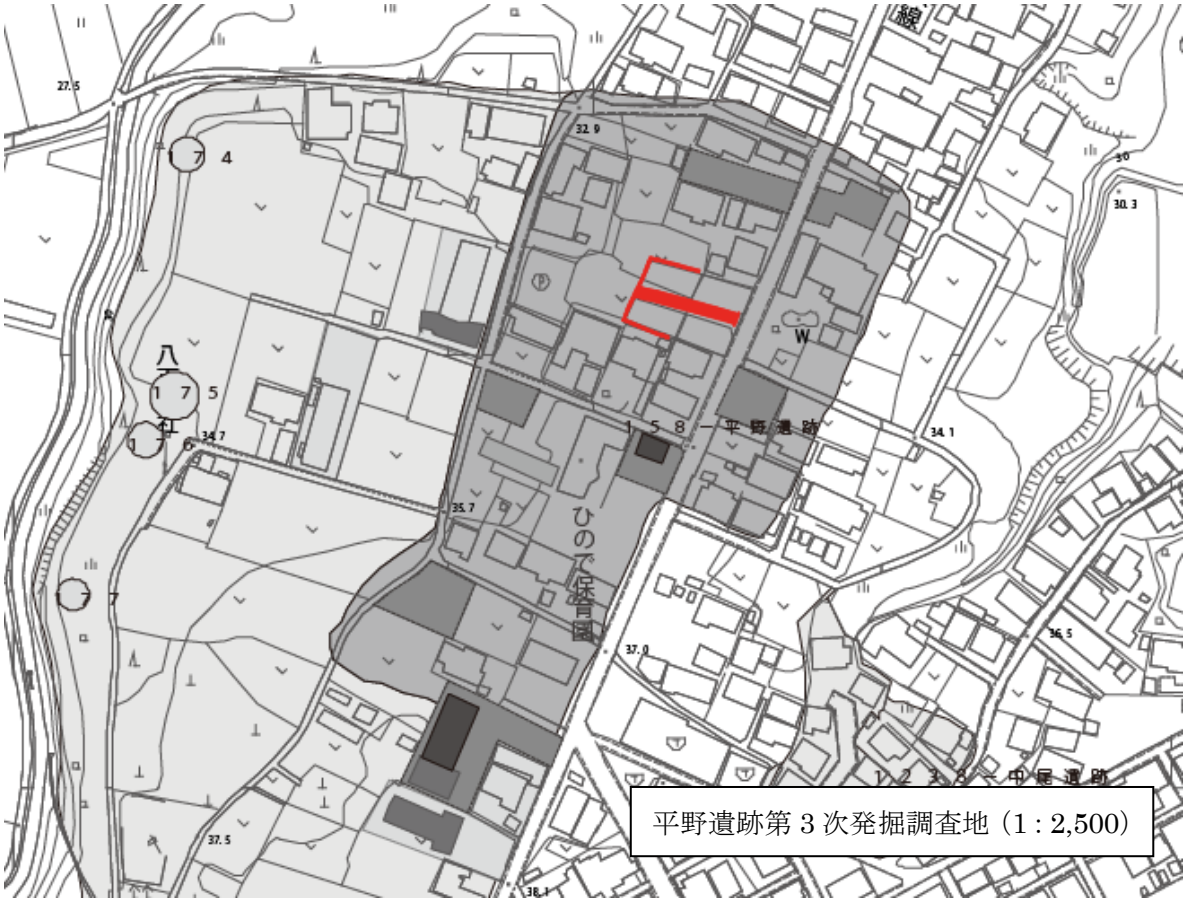
竪穴住居(SH06)　1 区南端においてわずかに北東隅を検出したのみで，詳細は不明である。

道路遺構　2～4 区で検出された，北西―南東方向の道路遺構である。路面幅は約 4m，遺構底面は不整形な連続土坑が配置され，いわゆる波板状圧痕を呈する。土坑からは山茶碗・土師器が出土しており，鎌倉時代に使用されていたものと考えられる。

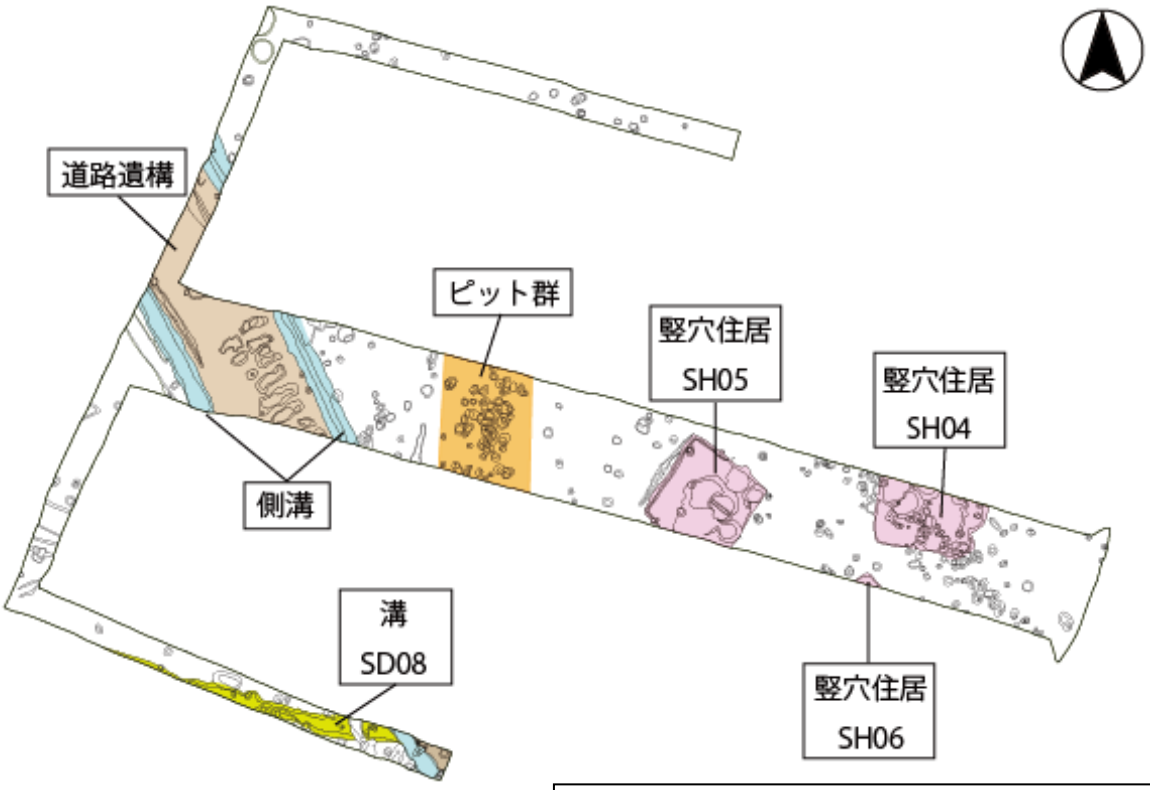
溝(SD08)　5 区で検出された東西方向に走る溝で，長さ 10m，幅 0.7m，深さは 0.15mほどで，完形に近い山茶碗が出土した。

この他，多数のピットが調査区全体で検出されたが，建物としてまとまるものはなかった。

出土遺物は土師器の破片と山茶碗が大半を占める。主要な遺物については鈴鹿市考古博物館の速報展「発掘された鈴鹿 2012」（平成 25 年 3 月 22 日～6 月 23 日）で公開している。



平野遺跡第 3 次発掘調査地（1：2,500）



平野遺跡第 3 次発掘調査　遺構平面図（1：200）

検出状況（東から）

検出状況（南東から）

竪穴住居 SH04（東から）

道路遺構（北東から）

竪穴住居 SH05（西から）

調査区全景（西から）